

まちの話題

木曾川水源の森づくり

3月14日、通称 笹池草地の町有地で、麒麟ビール名古屋工場(愛知県清須市)の社員や家族、がんばろまいやおつや町内のボランティアの皆さん、県・町職員ら約250人がサクラ・モミジ・ケヤキの苗木約1,000本の植樹や管理路の整備を行いました。

今回の活動は今年で3年目で、今までの活動としては、平成19年度に広葉樹3,000本の植栽と下刈り、平成20年度は広葉樹2,000本の植栽と下刈りを行いました。

参加者らは、1本1本ていねいに苗木を植え、その苗木を添え木に縛り付けたり、雑草が生えないようにと、林道工事の支障となって切り倒した木のチップを、同草地内の管理路脇に撒いたりして、約2時間で作業を完了しました。



夢がつながりました

3月24日、建設中の「国道418号 新旅足橋」の橋上で、八百津側から施工してきた橋体と潮南側(南戸)から施工してきた橋体が接合したことを祝う「連結式」(主催 三井住友・昭和コンクリート特定建設工事共同企業体)が、赤塚町長をはじめ、滝上議長や地元自治会長のみなさん、小出武文新丸山ダム工事事務所長など約40名が出席し祝福しました。

新旅足橋は新丸山ダムの本体工事に伴い、水没する国道418号の付替道路として、旅足川を渡河する、国内における最大規模の橋です。橋脚と橋脚の間が220mという長さは従来の175mを抜く日本一

で、河床から200mの高低差を有する急V字溪谷のため、橋脚も100mを越す日本3位の高さの長大橋です。

「連結式」では、赤塚町長や工事関係者のみなさんが、橋の無事完成を願って、橋体に開けられた穴にスコップでコンクリートを詰める儀式を行いました。

今後は舗装や交通安全設備などの工事が行われ、橋を利用できるようになるのは、来年の3月頃になりそうです。



八百津側から潮南側を望む



潮南側から八百津側を望む